

あか う にい さい
赤ちゃんが生まれてお兄ちゃんになった、3歳のたくちゃんのおうちのできごとです。

あか びょういん ちゅう
ママと赤ちゃんは病院へおでかけ中。

パパとたくちゃんのふたりでおるすばんをしていました。

きょう てんき こうえん い
「今日もいい天気だね～。たくちゃん、公園に行こうか？」

だい
「うん、すべり台がしたいよー！」

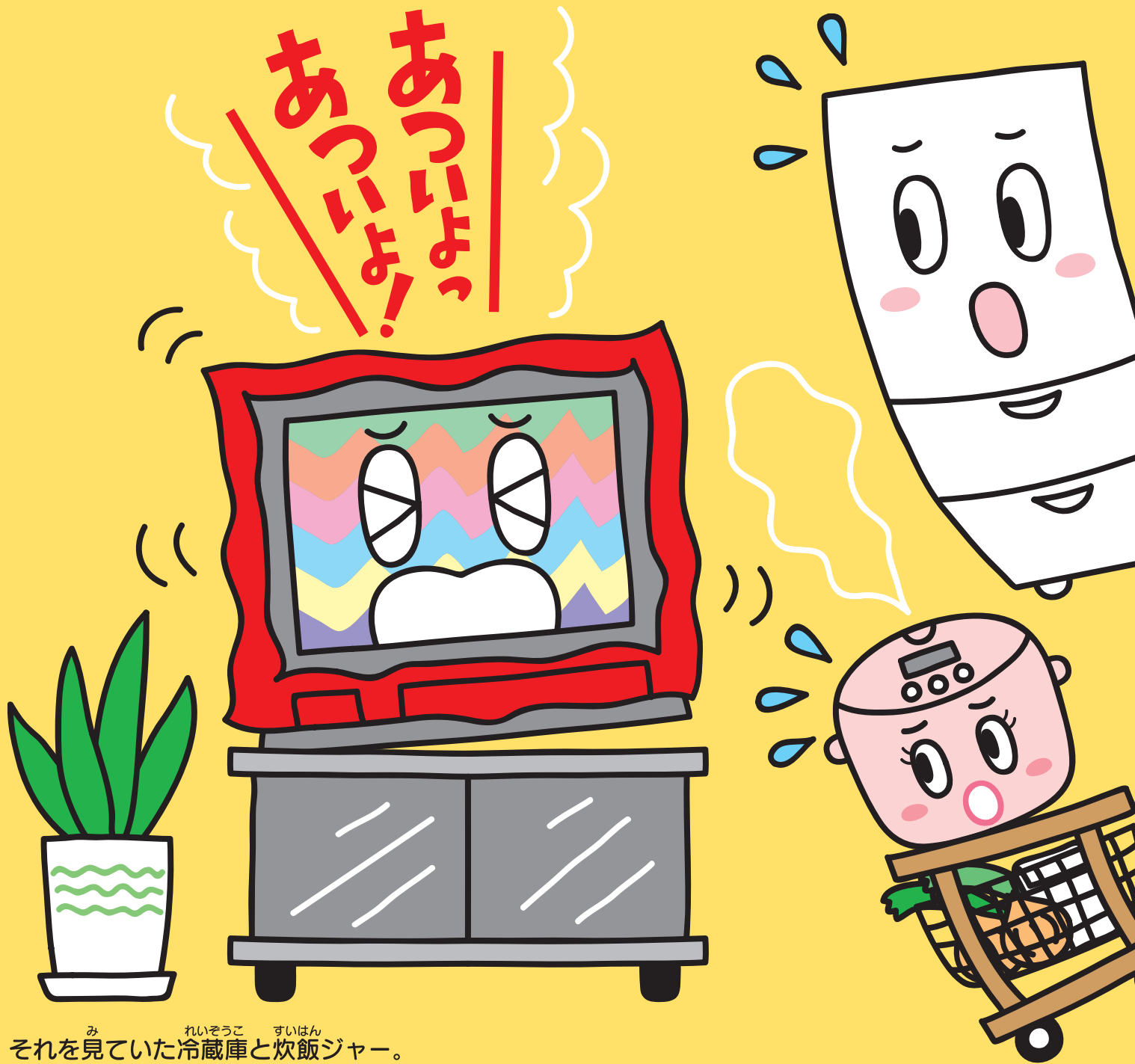
い
「よし行こう！」

で
そういつて、たくちゃんとパパは出かけてしまいました。



ところが、だーれもないたくちゃんのおうちから、なに こそ き
何やら声が聞こえてきたのです…。

だれ だれ あつ あつ はや き
「誰か〜! 誰か〜! 熱いよ〜 熱いよ!! ぼくのスイッチ早く切ってよ——!!!」
ま か さけ
真っ赤になったテレビがドタバタしながら叫んでいます。



み れいそうこ すいはん
それを見ていた冷蔵庫と炊飯ジャー。

「あ〜あ、テレビをつけたのすっかり忘れて、たくちゃんとパパ、公園に行っちゃったね〜。

ぼくは歩けないから、助けてやれないよ〜。」

「私だって、ずーっとつけっぱなしだから、熱くてたままないさんすわ。オホホホホ…」

「そういわずに、助けてくれよ!」とお願いしているテレビに冷蔵庫は、

「誰か帰ってくるまで待つしかないよ。」とすましています。

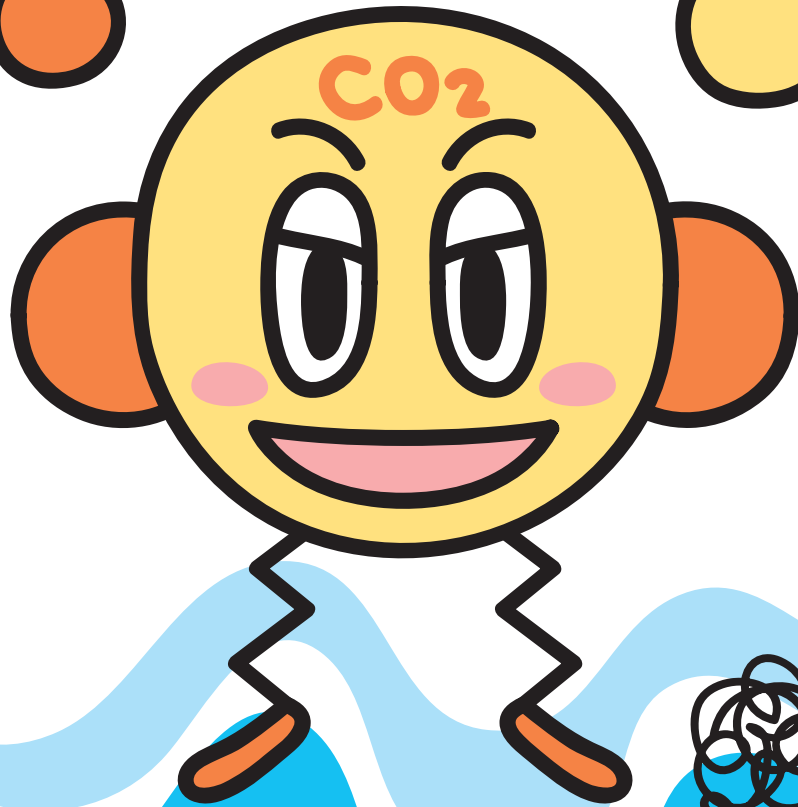
みんなが話しているところに、

「お前達、うるさいな〜! おうちの中にはだ〜れもいないんだからさ〜、

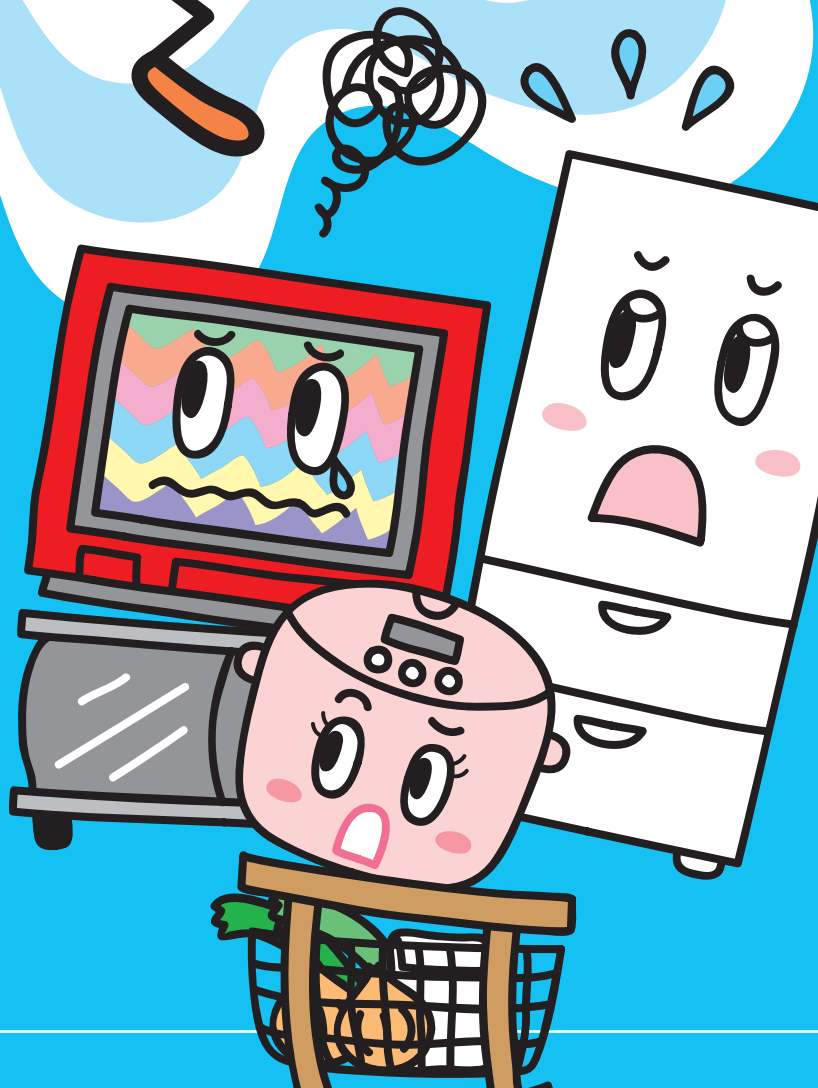
いくら言ったって聞こえやしないさ。」

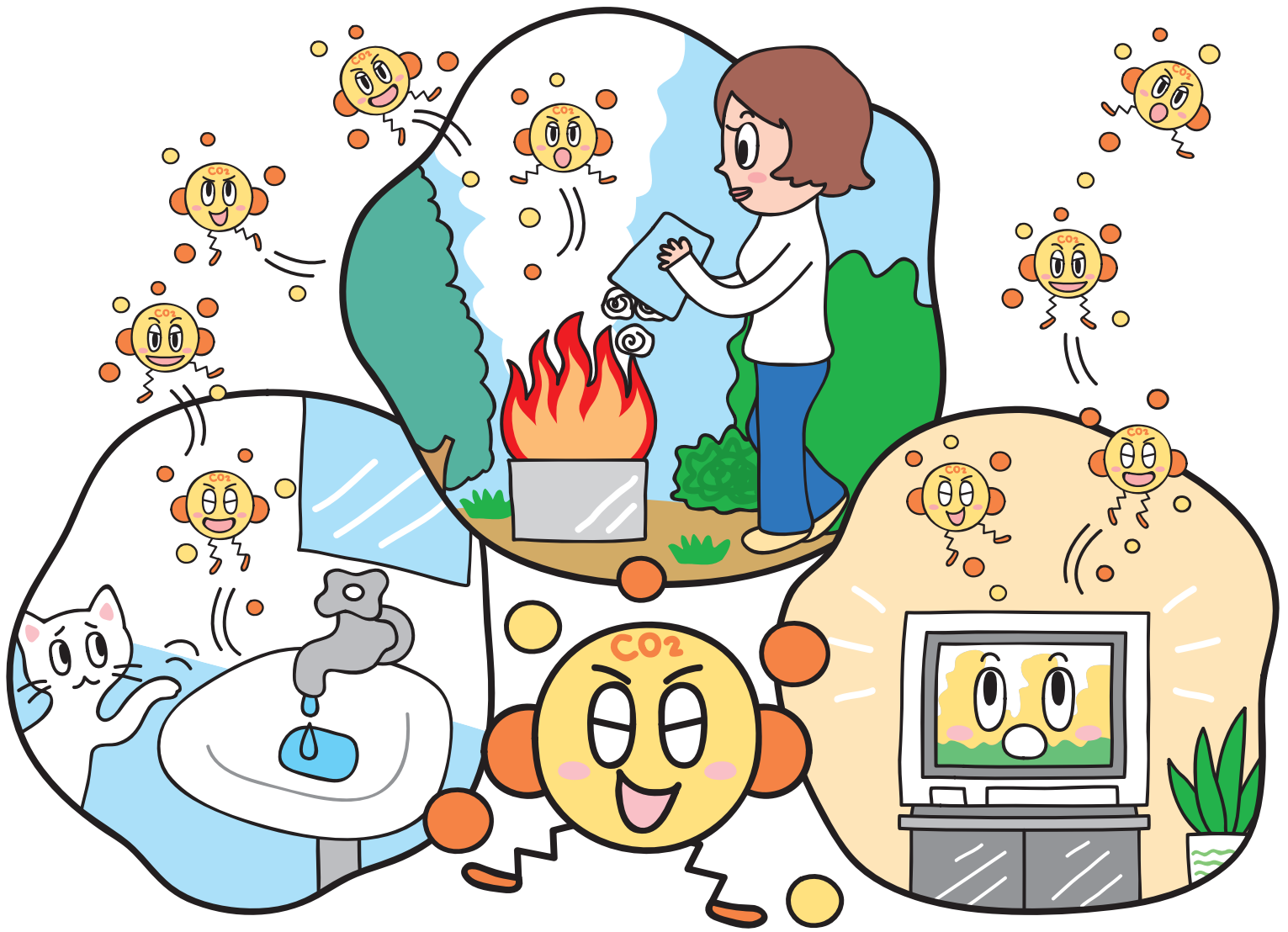
突然、聞いたことのない怖い声がしてきたのです。

トジャーンキャン！

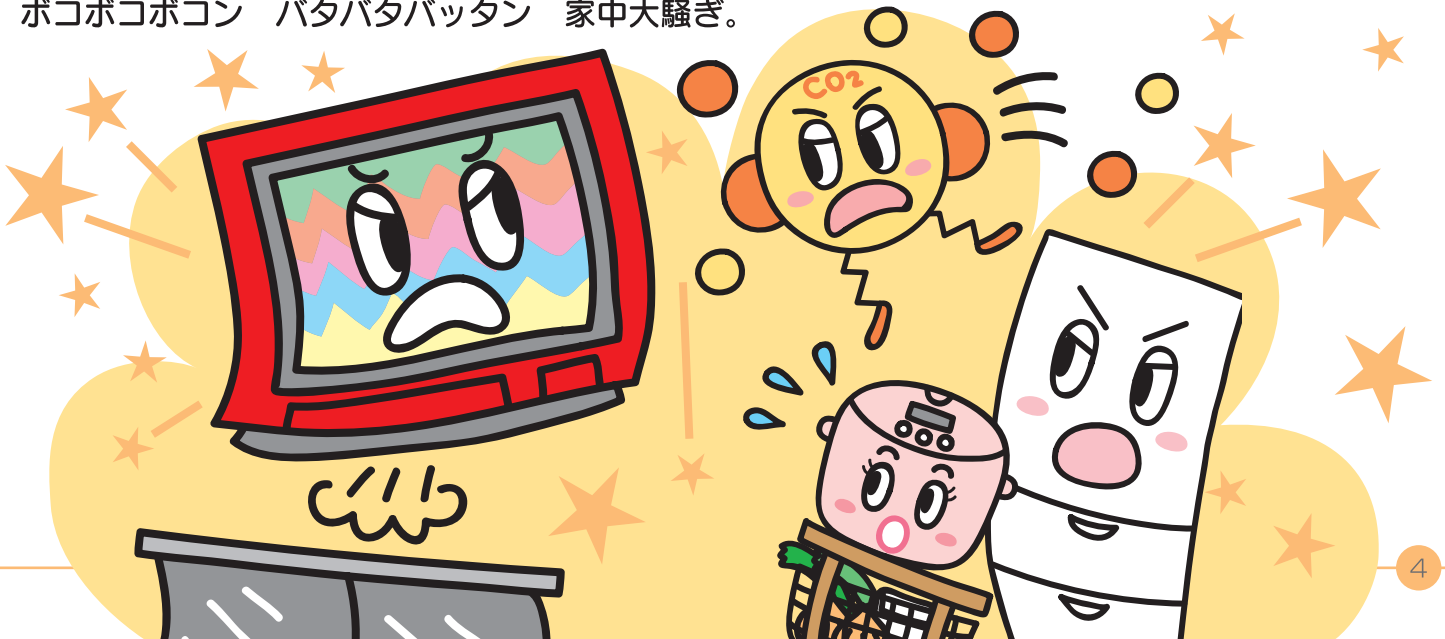


「君はだれ？」とテレビは聞きました。
「俺様は、テレビにスイッチを入れたら出てくる、シーオーツーさ！」
「シーオーツーだって？ぼくから出てくるって～？うそだろ！」
「うそなもんか。お前たち、テレビやビデオ、冷蔵庫、炊飯ジャーにスイッチが入ると出てくるのさ！」驚くテレビに向かって言います。
炊飯ジャーは「どうして出てくるさんず…？」とおそろおそろシーオーツーに聞きました。

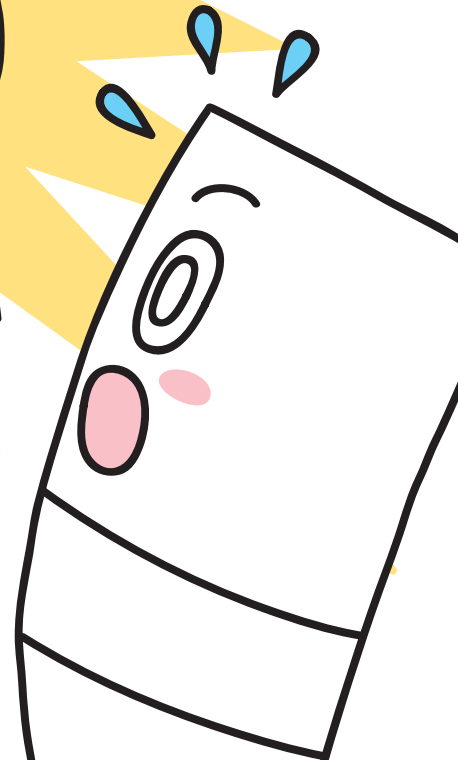
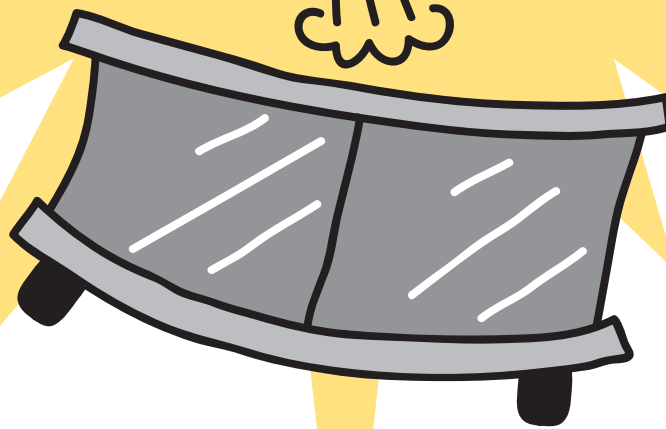
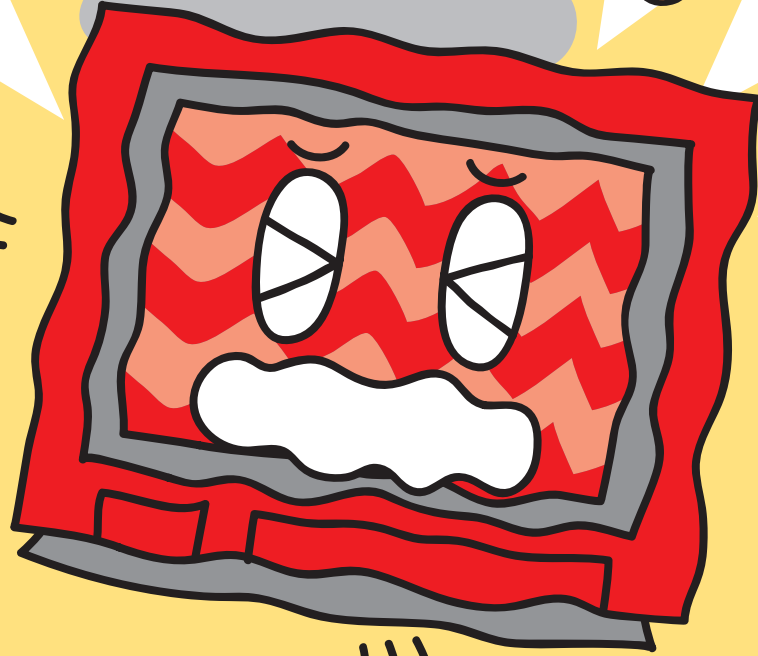




「おまえ達は、み～んな、電気を食べて動くだろ？」と聞いているシーオーツーに
 「それとなんの関係があるんだよ！」「そうざんす！」冷蔵庫や炊飯ジャーは言い返します。
 「俺様は、その電気を使うと出てくるのさ。ゴミを燃やすときの火からも出るんだ。水道を出しっぱなしにすると、俺達がどんどん生まれてくるんだよ！」
 「シーオーツーが知っていることはうそかもしれないぞ！ええーい、炊飯ジャー！このシーオーツーをやっつけて、おうちから追い出そうよ！」
 「わかったざんす！私の熱～いご飯攻撃でやっつけるざんす！」
 そいういうと冷蔵庫や炊飯ジャーはシーオーツーに飛びかかりました。
 ボコボコボコン バタバタバタッタン 家中大騒ぎ。



もくもくも



「あ～、チチチチチチ、けんかしたからもっと熱くなってきたぞー！」

赤あかくなったテレビの頭あたまからけむりでが出てきてしまいました。

「わ～～～大変だ～～！」みんなはパニックです。

「待まって！けんかをやめてざんす！早くテレビのスイッチはやを切ってあげないと、このままじゃあ、壊こわれてしまうわん。」といっしょうけんめいはなに話す炊飯すいはんジャー。

「スイッチはいが入いっていると俺達おれたちはどんどん生まれうてくるからな！アハハハ…」とシーオーツーは大きな声おおで笑こえっています。

“！”炊飯すいはんジャーはいい事ことを思い出おもしました。

「『もったいないはちきゅうをまもるココロンパ』ってヒミツのことしば知しってるでざんす？

そのことやさばを、優しい心こころで唱となえると、願ねがい事ことが叶かなうって聞きいたことがあるわん。

ねえ、みんな、テレビのために声こえに出だして叫さけびましょ！」

もったいないはちきゅうをまもる ココロンパ!



みんなで声を合わせて『もったいないはちきゅうをまもるココロンパ』と言いました。

ところがテレビのスイッチは切れません!

「どうして切れないんだろう～?」冷蔵庫は困り果てました。

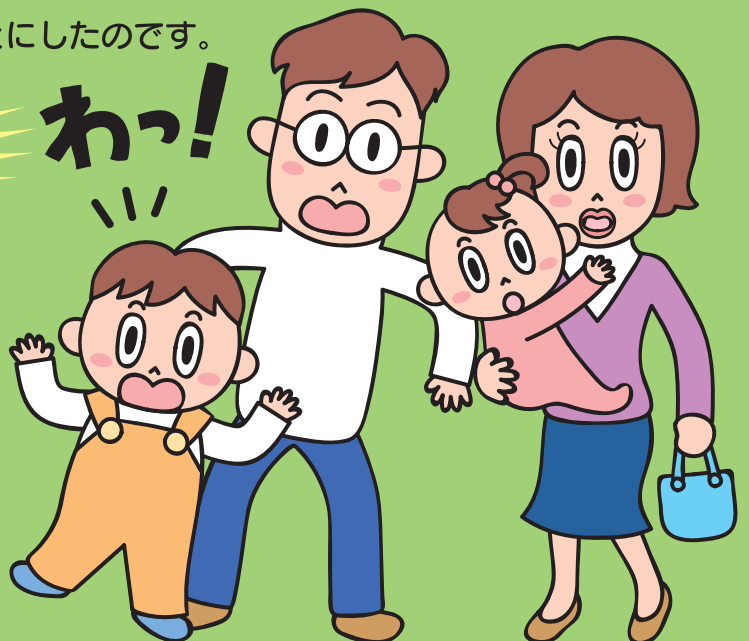
「そうだわ!『やさしい心』が足りないざんすよ!スイッチを切るにはやっぱり、ママやパパ、たくちゃんたち、みんなの助けが必要ざんすよ!」と力強く話す炊飯ジャーの言葉にみんなは、

うん、うん……

そうやってみんなでたくちゃんたちを呼ぶことにしたのです。

ママ、パパ、たくちゃん
テレビが大変だよ～!!!

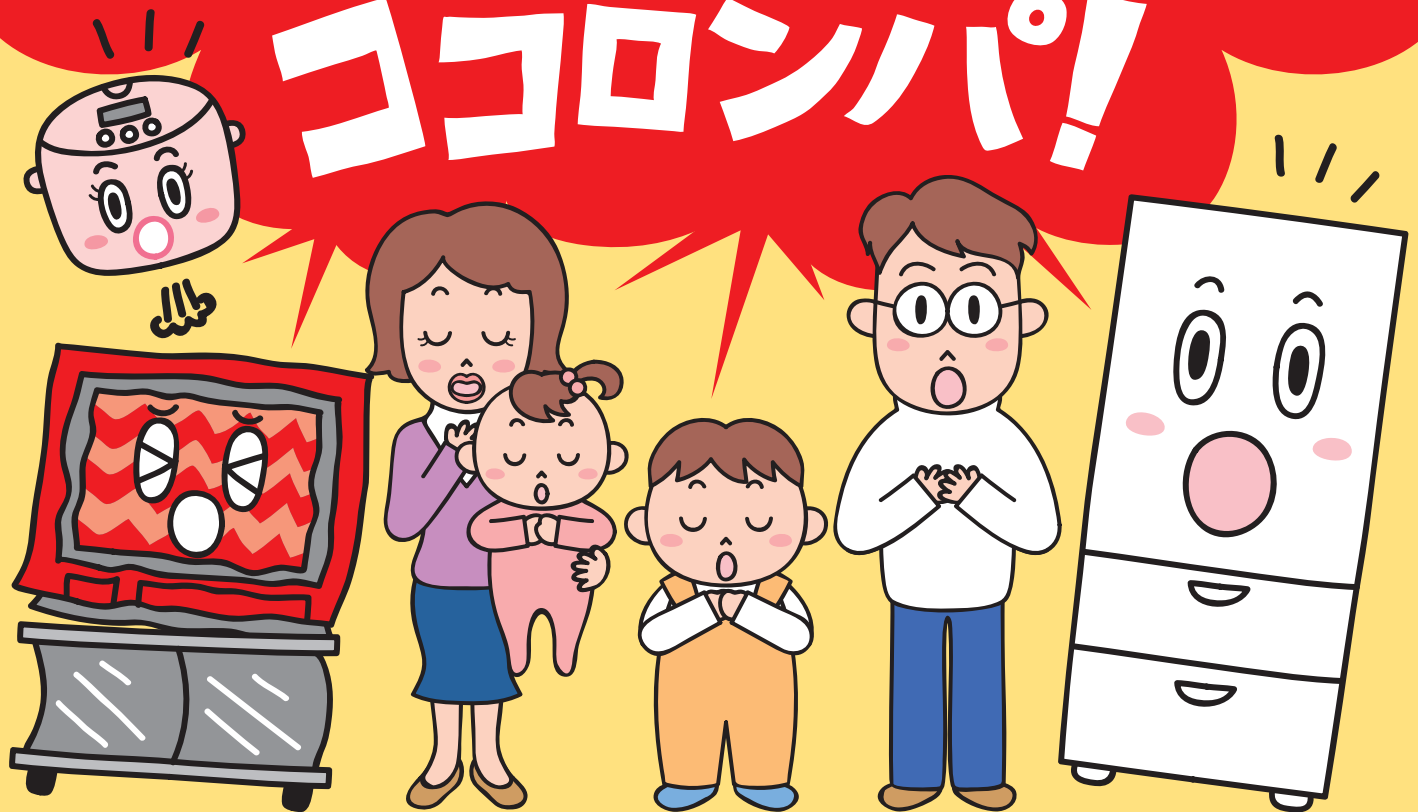
わっ!



あわてて帰ってきたみんなに、炊飯ジャーはこれまでのことを話しました。

もったいないはちきゅうをまもる

ココロンパ!



炊飯ジャーは、「さあ、みんなもう一度言うぞんすよ! そこで聞いているお友達もいっしょに! セーの!」

『もったいないはちきゅうをまもるココロンパ』

たくちゃんは、『テレビ君を助けてください!』と心で願いながら、スイッチを切りました。

パチ!

「わああ〜、スイッチが切れたよー!!!」

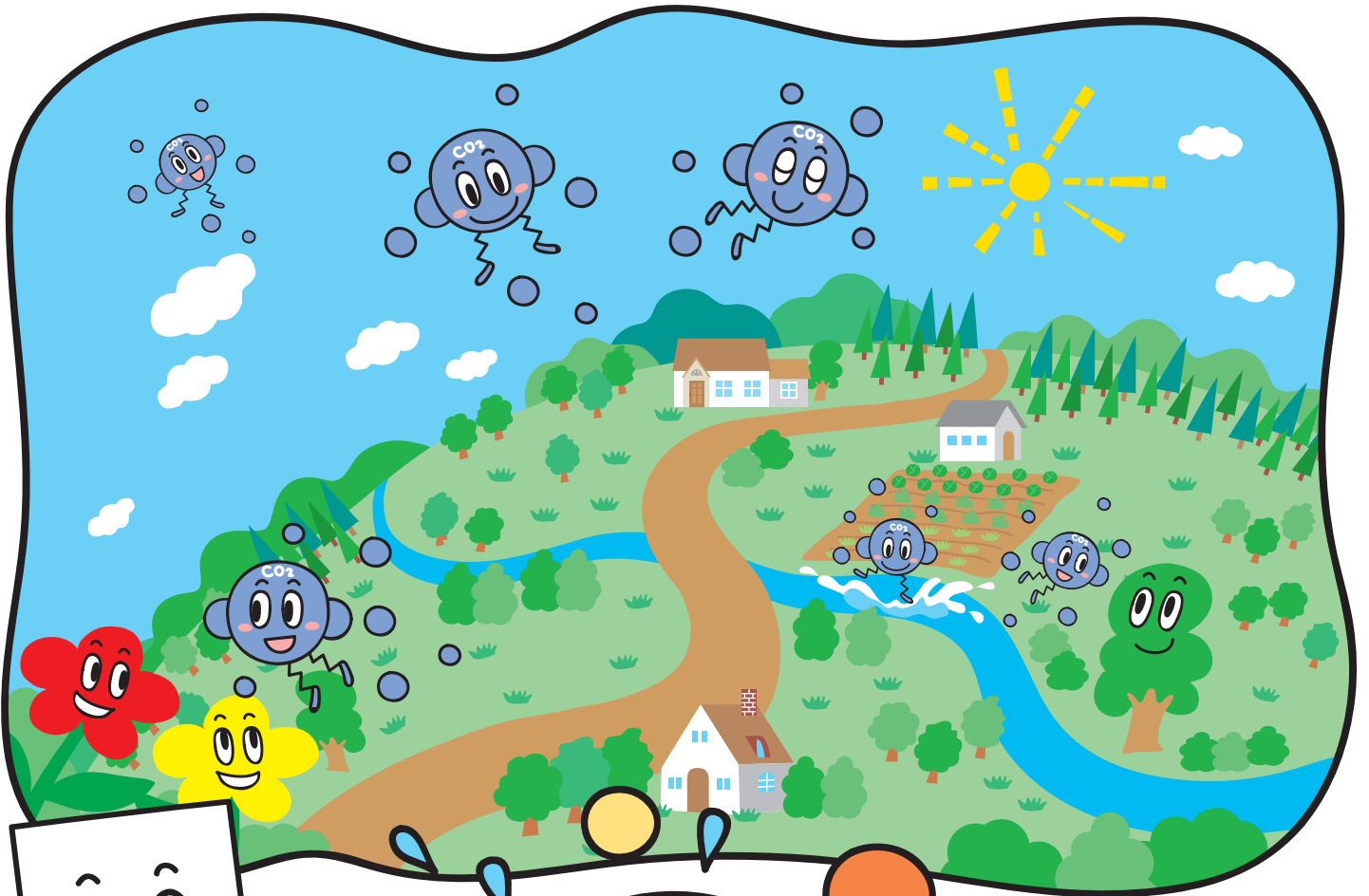
「やった〜! これであのシーオーツも消えるよ!!」

テレビも冷蔵庫も炊飯ジャーも大喜びです。

「公園に行くとき、パパがスイッチを切るのを忘れていたよ! ごめんね!」とパパが言いました。

たくちゃんとママも「良かったね、テレビ君!」みんなとってもよろこんでいます。ところが…





「わ～ん、わ～ん！」

とつぜん おお こえ
突然、大きな声で、シーオーツーが泣きだしたではありませんか！

れいそうこ
冷蔵庫は「どうしたんだよ、シーオーツー！テレビのスイッチが切れてそんなに悲しいの！」とシーオーツーに聞きました。

ちが
シーオーツーは「違うよ。みんなはぼくをわるもの おもを悪者だと思っているだろ？ぼくだって、むかし にんげん もり くさ
はな きみたち 花、君達のようなテレビや冷蔵庫とも仲良く暮らしていたんだ。でも、にんげん でんき つか
うになって、たくさん生まれてきて、あつというまに悪いシーオーツーにへんしん
へんしん
その悲しように話すシーオーツーを見ていたテレビや炊飯ジャーは、

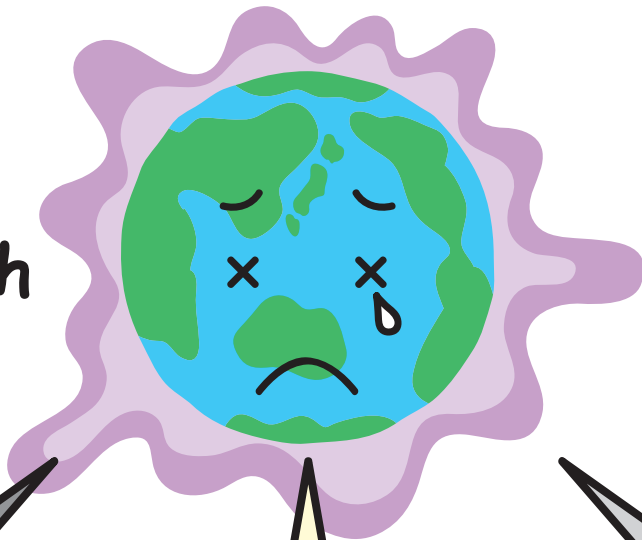
かな はな
「そうか～。シーオーツーは、たくさん集まったから、わるもの へんしん
あつ
悪者に変身したんだね」

「かわいそうさんすね…クスン クスン…」

わるもの へんしん
シーオーツーは「ぼくたちが悪者に変身したら、どんな悪いことがおきるか、きみたち し
わるもの へんしん
とみんなに聞きました。

し
「知らない…」みんなはこた
答えました。

The Earth



is Sick



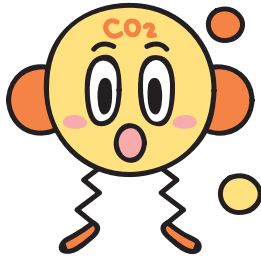
いじょうきしょう
異常気象



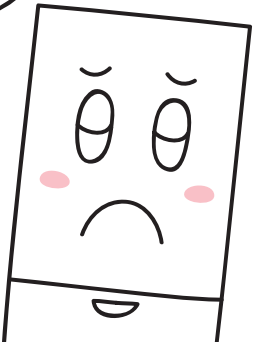
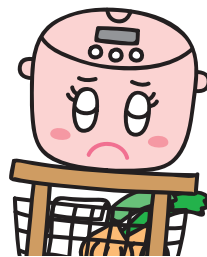
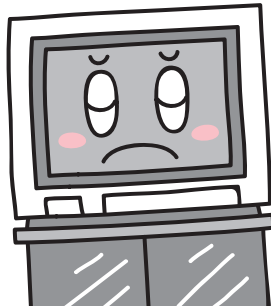
さばくか
砂漠化



しょくりょうなん
食糧難



うーん...

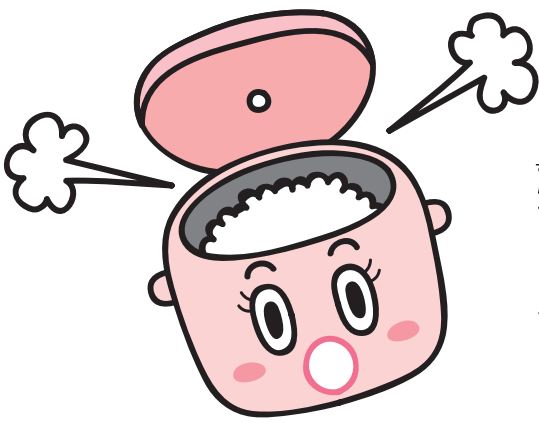


シーオーツーは「君達が住んでいる、地球が病気になっていくんだ。暑い日が続いたり、逆に、雨がたくさんふりすぎたり、食べ物も少なくなったり、そんな大変なことが次々と起きてくるんだよ…」と困った様子で話します。

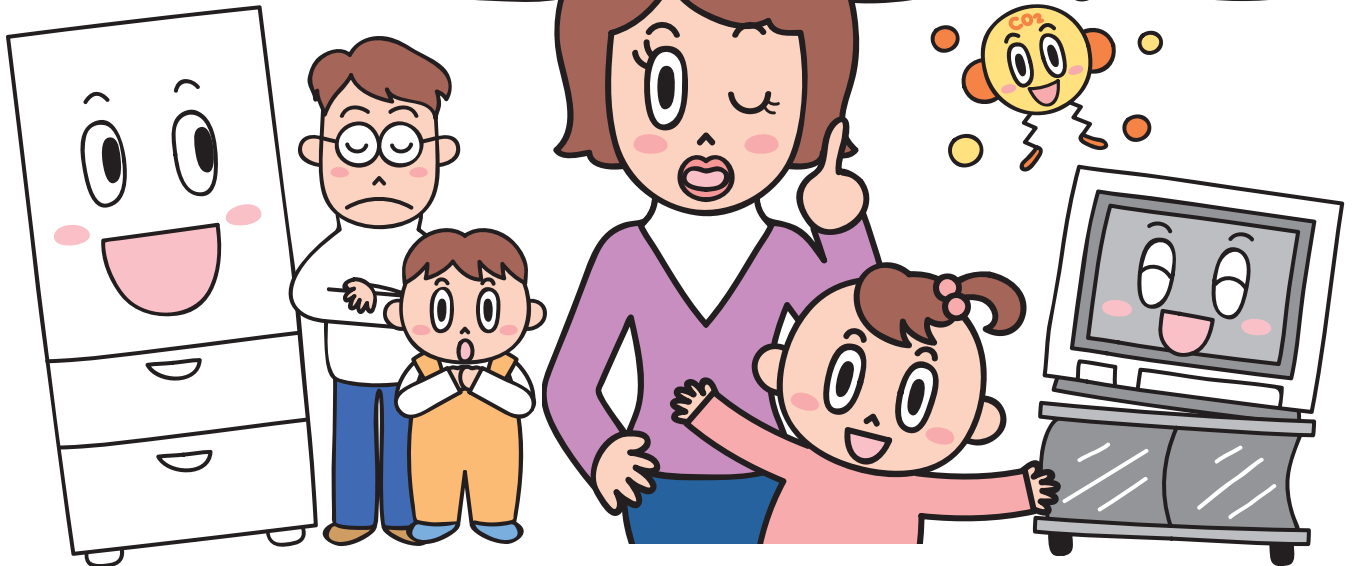
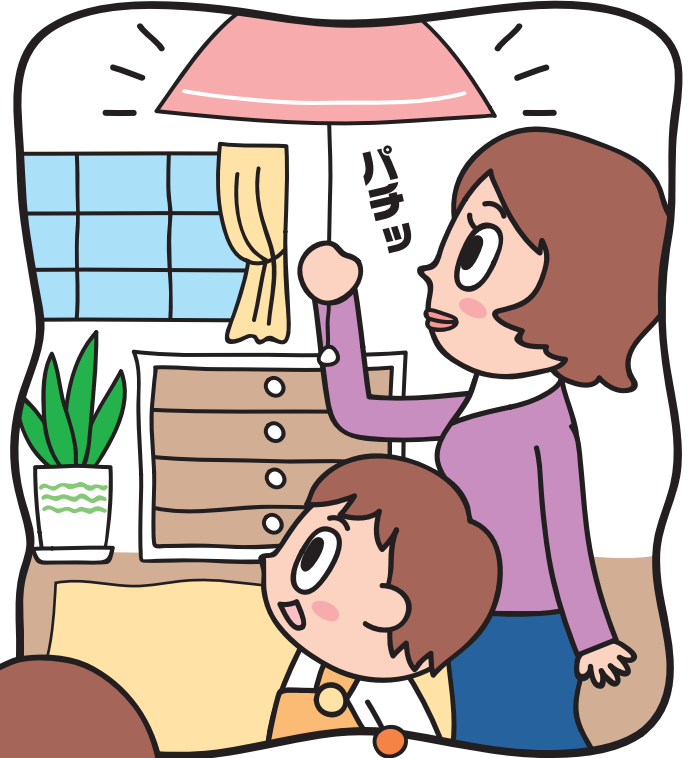
「えっ、そうなの! どうしたらいいんです?」炊飯ジャーは驚きました。

「ぼくにいい考えがある! ぼく達シーオーツーがたくさん生まれてこないように、電気をたくさん使わないようにするんだ。」シーオーツーはみんなを説得しています。

「でも～僕たち、電気がないと動けないよ…」みんながつぶやきます。



すいはん
炊飯ジャーはパカッとふたをあけて、
「そうよ！そんなの、^{わたし}私たちだけではできないぞんす！だって、
スイッチを入れるのは、^{わたしたち}私達じゃなくて、^{にんげん}『人間』ぞんすよ！」
とママたちを見て言いました。



「そうね、シーオーツーや炊飯ジャーがいうように、^{わたしたち}私達が工夫しなきゃね。^{つか}使うときだけスイッチを
いれるようにしたり、^{すいどう}水道も^{はみが}歯磨きの^{とき}時出しばなしにしない。^{ひつよう}必要なときに必要な分だけ^{つか}使う。
^{つか}むだ遣いをしない！」とママも真剣な顔。

「そうだね。いつも「もったいないな～」という心を持つようにしたらどうだろう？」
パパも言いました。



そんな話を聞いていたたくちゃんは、
「ぼくね、ママやパパが言ったことを守るよ。そしてひみつの言葉を、いつも心で思っておくよ！ねえ、みんなもいっしょに歌おう！」
と元気よく言いました。

もったいないはちきゅうをまもるココロンパ！

つけっぱなしは許さない！

もったいないはちきゅうをまもるココロンパ！

シーオーツも泣いてるよ！

みんなのやさしい心がつながれば

ちきゅうはきっと救えるさ！

たくちゃんは、それからというものの、「もったいないよ！」
というのがくせになりました。
そして、みんなで約束したことをずっと守っているのです。
そう、地球のため、そして自分達のためにね！

よかった、よかった！
おしまい！

